

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）の財務状況

平成30年度及び令和元年度のUNDB-J事業における財務状況は以下のとおり。

資金元	用途	R元年度 執行予定※	H30年度 執行実績
環境省予算	UNDB-J 会議運営 せいかりレー MY 行動宣言の普及 広報誌作成自治体ネットワーク 支援 その他全般企画 等	20 百万円	15 百万円
寄付金（UNDB-J 支援事業） 積水樹脂株式会社 株式会社ダイフク 経団連自然保護協議会 サカタインクス株式会社	連携事業の認定 生物多様性の本箱寄贈 ユース育成国際派遣 UNDB-J ウェブサイト運営 UNDB-J サーバ管理 等	9 百万円	8 百万円
協賛金（生物多様性アクション大賞）	生物多様性アクション大賞運営	10 百万円	10 百万円
緑の募金（グリーンウェイブ）	グリーンウェイブ運営 グリーンウェイブ・モデルキャンペーン	1 百万円	0 円

※見込みを含む概算

国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)

令和元年度 事業実施計画 (案)

<方 針>

平成 30 年度は、ロードマップに基づき、UNDB-J 及び構成団体が生物多様性の主流化に向けた取組を推進した。令和元年度は引き続き取組を推進するとともに、2020 年に向けた 10 年間の取組・成果と今後の進め方について、整理・検討を行う。

<重点事業>

★○未来へつなぐ「国連生物多様性の 10 年」せいかりレーの実施

2020 年 1 月より、1 年間を通した「未来へつなぐ『国連生物多様性の 10 年』せいかりレー」を実施する。そのキックオフは COP10 を開催した名古屋市において、愛知県、名古屋市と連携して開催する。

○ロードマップに基づいた取組推進

ロードマップに位置づけられている取組について、前年度の取組状況のフォローアップを行うとともに、必要な改訂を行う。その上で、ロードマップに基づいた取組を推進する。特に UNDB-J としての取組として掲げられている以下の取組について重点的に取り組む。

・100 万人の「MY 行動宣言」

宣言シート、スマホ等を活用して様々な団体及び既存のイベント等との連携等を推進し、2020 年までに 100 万人の宣言を目指す。

・「生物多様性の本箱」300 館プロジェクト

推薦図書「生物多様性の本箱」の常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を 2020 年までに 300 館達成することを目指して、さらなる普及啓発に取り組む。

・「にじゅうまるプロジェクト」2020 宣言

にじゅうまるプロジェクト実施主体の国際自然保護連合日本委員会と連携して、2020 宣言を目指す。

・グリーンウェイブ 2019 の取組

関係機関と緊密に連携してオフィシャル・パートナーの任命等を実施し、オフィシャル・パートナーとも連携し参加団体の増加とパブリシティの促進を図る。

○2020 年に向けた検討

国連生物多様性の 10 年（UNDB）の最終年である 2020 年に向けて、10 年間の取組及び成果の取りまとめ内容について、更に 2020 年以降について、UNDB-J の様々な会合等の場を活用しながら、検討を進める。

<個別事業>

★	新規事業・取組
☆	Iki・Tomo 推進事業
【 】	〃 推進事務局

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

☆（1）MY 行動宣言 5 つのアクション・100 万人の MY 行動宣言

国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5 つのアクションの中から自らの行動を選択して宣言する「MY 行動宣言シート」について、主流化の取組みの初動となるツールとして活用を広く呼びかける。

- ・ 多様な関係者の協力により作成された各 ver. の宣言シートの配布。
- ・ SNS 等ソーシャルメディアを活用した MY 行動宣言。
- ・ YouTube 等マスメディアを活用した呼びかけの実施。
- ・ UNDB-J が運営に関わるイベントにおいて、5 アクションを踏まえたスタンプラリー等、効果的な収集方法を検討・実施。
- ・ MY 行動宣言と連携可能な団体と、イベント等にて積極的な PR を展開。
- ・ UNDB-J や環境省の後援名義の申請団体や、イベントで顔を合わせた団体等に、MY 行動宣言の収集を依頼。

☆（2）生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

国民一人ひとりが 5 つのアクションを理解し実践するため、全国各地から事例を収集してウェブサイトに掲載することと、各地の活動を応援することを目的に、企業等に寄付協賛を呼びかけ、MY 行動宣言の 5 つのアクションに即した活動を募集し表彰する「生物多様性アクション大賞 2019」を昨年度に引き続き、UNDB-J 主催事業として実施。

2. セクター間の情報交換・連携促進

（1）生物多様性全国ミーティング

- ・ 重点事業に記載したとおり、2020 年 1 月に「せいかりレー」のキックオフイベント、愛知県、名古屋市と連携して開催。

（2）国連生物多様性の 10 年日本委員会 地域フォーラム

各地域レベルで UNDB-J 各委員、認定連携事業の認定団体、各地域で活動する様々な団体等の連携による取組を推進するため、各地域における関係者が一堂に会し、事例紹介やワークショップを行うフォーラムを地方事務所、自治体ネットワーク、EPO と連携して 1 回開催。

3. 主流化に向けた活動プログラム

☆ (1) 「生物多様性の本箱」の普及啓発

＜「生物多様性の本箱」300館プロジェクト＞

- ・ UNDB-J が推薦する子供向け図書「生物多様性の本箱」については、常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を 2020 年までに 300 館達成することを目指して、さらなる普及啓発を図るための広報、様々なイベントへの出展等を実施。

＜本箱寄贈プロジェクト＞【日本自然保護協会等】

「生物多様性の本箱」を普及啓発施設、小・中学校、図書館等に寄贈し、持続可能な社会の未来を担う子どもたちへ、生物多様性の理解、普及啓発を推進するため、企業等に寄付協賛を呼びかける。

☆ (2) 連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】

- ・ UNDB-J が推奨する連携事業を 2 回認定（時期については調整）。
- ・ ウェブサイトでの紹介、リーフレットを活用した各セクターへの働きかけ。

☆ (3) グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】

植樹等をきっかけとした生物多様性の広報、教育、普及啓発を推進するため、3 月 1 日から 6 月 15 日までの期間に、国内の各地域で植樹等を行う国連生物多様性の 10 年「グリーンウェイブ 2019」への参加と協力を広く呼びかける。

- ・ 地方自治体や企業・団体等が主体となった「グリーンウェイブ」の呼びかけを強化するため、①登録促進、②広報、③寄付・協賛等を通して「グリーンウェイブ」の取組の活性化に寄与する地方自治体や企業・団体等を、「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーに任命。

(4) 生物多様性イベント支援ツール

生物多様性自治体ネットワーク構成自治体において生物多様性関連主催イベントを積極的に開催するよう呼びかけるとともに、同自治体向けに「地球いきもの応援団」の紹介や生物多様性キャラクター応援団「タヨちゃんサトくん」の着ぐるみ、「生物多様性の本箱」等の貸出、各種広報ツールの配布を実施。

4. 情報発信

(1) 令和元年 生物多様性関連情報 一斉報道発表

各セクター・委員において、5 月 22 日の「国際生物多様性の日」周辺でのイベント行事開催の呼びかけ、および年内に開催するイベント・行事とあわせて取りまとめた報道発表を実施。

(2) 生物多様性マガジン「Iki-Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を発行。

☆ (3) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトの運営。連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体について取組や紹介文を掲載。

(4) facebook「Iki-Tomo パートナーズ」

- ・ Iki-Tomo パートナーズへの新たな参画を関係者へ呼びかけ。
- ・ 認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組を広く発信。
- ・ 環境省の報道発表と連動し、イベント開催情報等を発信。

(5) UNDB-J ウェブサイト

全国ミーティング、地域フォーラム等のイベント開催情報や、MY 行動宣言や生物多様性の本箱、認定連携事業の実績等、UNDB-J の活動状況等を発信。

(6) イベント

みどりの感謝祭、グリーンチャレンジデー等へ UNDB-J の取組を発信する展示を出展。

5. 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

地球いきもの応援団の全国ミーティング等での出演を通じた普及啓発。

(2) 生物多様性キャラクター応援団

- ・ キャラクター応援団への新たな入団を呼びかけ。
- ・ 全国ミーティング、地域フォーラム等の機会を活用し、UNDB-J キャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地のキャラクターが、今後協力して普及啓発に取り組むことを宣言する「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施。

6. 委員会等の運営

- ・ 委員会（1回）、幹事会（2回程度）、運営部会（3回程度）を開催。
- ・ 寄付金の活用については UNDB-J 支援事業財務委員会（5月、2月）と連携。
- ・ 2020 年に向けた UNDB-J や構成団体の取組をまとめたロードマップに基づいた取組を推進。

【参考】

(1) UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について

- ・ UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J 全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置。
- ・ 事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施。

(2) 寄付協賛募集事業について

- ・ 事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施。
- ・ 例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについても実施。

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)



MY 行動宣言事例集


「MY行動宣言」とは？

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J/委員長：経団連会長、事務局：環境省)が推進する生物多様性の普及啓発ツールの1つ。

目的：将来にわたって、生物多様性のもたらす恵みを受けていくために一人ひとりが生物多様性との関わりを身近な生活の中で実感し、行動してもらう。


内容：5つのアクションの中から自分にできそうなアクションを選んで宣言する。

5 アクション

Act 1  じもと たべよう
地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。

Act 2  しぜん なか で どうぶつえん すいぞくかん しょくぶつえん
自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれます**。

Act 3  しぜん すば きせつ うつ かん
自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。

Act 4  い 生きもの しぜん ひと ふんか
生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。

Act 5  エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。

国連生物多様性の10年日本委員会
生物多様性を守るために、私たちにできるアクション！
MY行動宣言

Act 1  地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。

Act 2  自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれます**。

Act 3  自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。

Act 4  生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。

Act 5  エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。

お住まいの都道府県 性別 男 女
年齢 10代未満 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

MY行動宣言実施ご協力のお願い

2020年末までにMY行動宣言「100万宣言」という目標を掲げて、生物多様性の主流化を推進しています。

生物多様性の主流化のためには、みなさんのご協力が必要です。環境教育やイベント、キャリア教育の一環、サークル活動等でMY行動宣言の実施にご協力をお願いいたします。

MY行動宣言の実施方法

1.シートで宣言

下記窓口にお問い合わせいただければ、何枚でも送付いたします。

実施後はUNDB-Jウェブサイトでご紹介するため、イベント名、実施団体、実施日、宣言数をお知らせください。

問合せ先 環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室
TEL：03-5521-8150 メール：shizen-suishin@env.go.jp

2.スマホ・パソコンで宣言

サイトから簡単に宣言できます。→ <http://undb.jp/spread-action/entry/>



3.その他の宣言

これまでも様々な団体がMY行動宣言を工夫して実施しています。

次のページからはこれまでにご報告いただいた事例を紹介します。

MY行動宣言の事例

A.シートを活用した事例

- A-1 イベント開始前に受付と併せて実施
- A-2 従業員向けに解説を加えた宣言シートを作成
- A-3 会社の環境目標としてMY行動宣言を位置付け
- A-4 サークル活動に関係づけたオリジナルの宣言を作成
- A-5 一人ひとりが自分ができることを記入して宣言
- A-6 来場者に自身の言葉で旗に宣言を書いてもらい掲示

B.シート以外の方法による事例

- B-1 ボールで投票して宣言
- B-2 葉っぱを貼る宣言で紅葉を表現
- B-3 シールを貼って皆で文字を完成

C.5アクションに関係した体験型の事例

- C-1 クイズラリー
- C-2 スタンプラリー
- C-3 イベント体験

里山里海にふれあうイベントで、受付の横にMY行動宣言のスペースを設け、受付の流れで宣言してからイベントに参加してもらった。

よかった 😊

- 受付のすぐ隣に宣言スペースを設けたことで、参加者に確実に宣言してもらうことができた。
- 里山里海にふれあうことが生物多様性の保全につながることを理解してからイベントに参加してもらったため、より自然について考えながら楽しめたと思われる。



イベント参加者が受付の流れでMY行動宣言している様子

A-2.従業員向けに解説を加えた宣言シートを作成

シチズン時計マニュファクチャリング株式会社

通常の5アクションに詳しい解説を加えたシートを準備して、工場従業員「全員」に宣言してもらった。

よかった 😊

- 自社で実施している環境保全活動は、スケジュールの関係等で全員参加が困難だが、「誰でも参加できる企画」として効果的だった。
- 今までに実施した環境保全活動にも関係づけることで、生物多様性の理解が深まった。



従業員へのMY行動宣言説明会

従業員がMY行動宣言している様子

A-3. 会社の環境目標としてMY行動宣言を位置付け

(株) 藤木工務店

会社の環境目標に「MY行動宣言」を実施することを位置付け、全員が宣言することとし、宣言後は自分の宣言を忘れないように、身近な場所に保存するようにした。

よかった 😊

- 社の目標とすることで社長以下全員がMY行動宣言を実施した。
- 普段から見える机の上等に宣言シートを掲示することで、常に意識して行動することができるとともに、身近な取組が自然と繋がり支えになる事が理解できるようになった。

藤木工務店『MY行動宣言』シート

◎環境方針 社員ひとり一人が環境保全の風土を醸成し、持続可能な循環社会を目指す
◎環境目標 環境保全の取組を向上させるため、社員全員が『MY行動宣言』を実施する

～ 生物多様性は、私たちの生きもの多様性によって支えられていて、生物多様性を守るためには、まずは暮らしの中で、生きものとのつながりを守る事が大切。水や空気をきれいにする、食べ物が残るものや材料、木の屑など、いろいろな生きもののおかげで取組は進んでいます。～

次の5つの中から選んで生物多様性の取組を宣言してください。承諾は『MY行動宣言』し、今日から行動します。

『MY行動宣言』 実行シート

act1 **ごみ分別** 廃棄物とれたものを全戸のもの集めます。

act2 **節水** 自給の水を節約し、節水器具や節水器具、自然や生きものに配慮します。

act3 **省エネ** 自給のエネルギーや冷暖房の稼働を削減し、省エネや、立派な省エネ器具を使います。

act4 **安全** 安全や自然、人や動物との「つながり」を守るため、廃棄物や全戸の取組に参加します。

act5 **エコ** エコな暮らしが自然に楽しく進んでいきます。

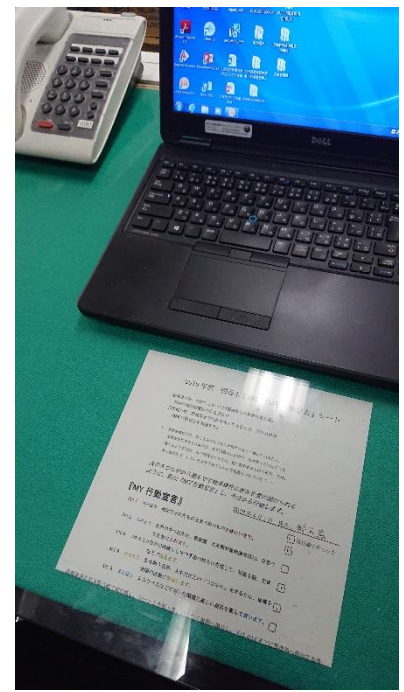
記入を義務付けず、机の上に置いてください

藤木工務店『MY行動宣言』

- 本店所属
- 名前
- 年齢、性別
- 住所（都道府県）



従業員がMY行動宣言している様子



机の上に置かれたMY行動宣言シート

A-4.サークル活動に関係づけたオリジナルの宣言を作成

関東学生潜水連盟

ダイビングサークルのつながりを活かし、国際サンゴ礁年である2018年にサンゴを守るためにできることを考え、「ダイバー版」のMY行動宣言を作成した。また、サンゴ保全活動と5アクションを関係づけた動画も合わせて公開した。

よかった 😊

- 動画を公開したことで、宣言した内容を実際にどう実行していくかがイメージしやすくなり、良い反響が得られた。
- 学園祭やサンゴ礁関係のイベントでMY行動宣言を呼びかけ。著名人やメディアの協力、SNS等の活用により、ユースを中心に多くの方が宣言してくれたことで達成感を感じた。



ダイバー版MY行動宣言



サンゴ保全活動とMY行動宣言を関係づけた動画

https://youtu.be/3rSyvq_R0OU


(参考)その他のオリジナルMY行動宣言

教育施設展示版

(公)日本動物園水族館協会

Blue Earth Project女子高生版

Blue Earth Project



生物多様性 MY行動宣言 5つのアクション

わたしたちと生きものたちのためにできる

5つのこと

- ふれよう**

わたしたちが動物園・水族館・植物園・博物館、ちよとはなれた森や畑、いんならと、いろんな季節に、生きものとの時間を、そっとのぞいてみることはじめましょう。
- たべよう**

たとえば、季節はずれの時期に冷凍庫を開けて野菜を育てたり、遠くでとれた食べものを頂くことは、エネルギーをたくさん使うので、温暖化につながります。温暖化によって、ホッキョクグマ・サンゴ・ライオンなどのすみ場所がなくなってしまうので、できるだけ季節のもの、近くのものを食べましょう。
- えらぼう**

たとえば、下のマークがついた商品があります。

目にやさしい

海のやさしい

MSC

環境にやさしい

環境にやさしい
- まもろう**

たとえば、道の生きものを守るために、海沿いの清掃活動に参加しましょう。

海や砂浜にごみが落ちていたり、ウミガメがゼニル藻を食べてしまったり、漁具が釣り糸にかかっています。だから、海辺を掃除しましょう。
- つたえよう**

ぜんっ一人でやるのは大変。家族や友だちにも伝えて、みんなで取り組まましょう。

皆さんの生きものが遠いうちに地球からいなくなると買われています

この「5つのこと」がわたしたちと生きものたちのためにできるから、わたしたちが

できそうなものから始めてみてください

たべよう

●地元の特産で美味しい魚を食べてCO2から地球を守りましょう！

※質問いただける場合はチェックをお願いたします。

●遠くから運んでくる鉄のエネルギー消費で大気中のCO2（二酸化炭素）濃度が上昇すると、温暖化や海洋酸性化で、海の生きものに影響を与えます。

ふれよう

●水族館でガラスの肉ごうの命にふれましょう

※質問いただける場合はチェックをお願いたします。

つたえよう

●大切な人達のために海の生きものを守ります

※質問いただける場合はチェックをお願いたします。

まもろう

●Blue Earth Projectのイベントとか、生きものを守るイベントに参加します。

※質問いただける場合はチェックをお願いたします。

●Blue Earth Projectの2月のイベントは2/17（土）神戸ハーバーランドLumeセンターストリート 2/25（日）西宮ガーデンズ4階木の森のステージ 共に10:00~16:00になります。

えらぼう

●1. 誰もいなくて使っていない部屋の電気を消して、STOPCO2な家族でのひと時を過ごすことを選びます。

●2. 懐かしいルームウェアを着て部屋の窓を下げず、STOPCO2につながるライフスタイルをえらびます。

MOTHER EARTH版

MOTHER EARTH

農林水産関係アクション版

農林水産省



MOTHER EARTH
「ライフスタイル・シフト Project」
MY行動宣言

すべての生き物と共生する。地球を、人類の未来を創るために、「ライフスタイル・シフト宣言」してみませんか？

MY行動宣言

地球の生物多様性を守るため、人類の未来を創るために、「ライフスタイル・シフト宣言」してみませんか？

- 1 たべる**
- 2 ふれる**
- 3 つたえよう**
- 4 まもろう**
- 5 えらぼう**

MY行動宣言

地球の生物多様性を守るため、人類の未来を創るために、「ライフスタイル・シフト宣言」してみませんか？

- 1 たべる**

□ すべての食べ物は、生き物であり「命」。地球、人間、ほかの生き物に優しい方法で作られたもの、旬のもの、地もの、伝統食として受け継がれてきたものを、積極的に食べます。
- 2 ふれる**

□ 自然の中で水、木、植物、土にふれ、動物や虫など「すべての生き物」を愛します。空を見上げて風と太陽を感じ、月や星を見つめ、生かされていることを母なる地球に感謝します。
- 3 つたえよう**

□ 大自然とすべての祈りの輝きを、まず「体と心」で感じます。次にそれを、言葉、写真、動画、絵、音楽などに表現して、まわりに伝えます。その大切さを次世代に伝える努力をします。
- 4 まもろう**

□ 美しい地球、すべての「生命の多様性」を100年後の未来へ引き継ぐために、生き物や自然を守り、環境や社会、文化とつながっている自分自身の心身の調和も大切にします。
- 5 えらぼう**

□ ものすべて「地球の恵み」。ほかの生き物や人、地球、そして私自身を傷つけない方法で作られたもの、伝統的なもの、再生可能なもの、土に還らせるものを、できる限り選びます。



ACT	活動内容	農林水産分野の活動内容例	農業	林業	漁業
ACT 1	地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。	地元でとれた農林水産物を食べ、旬のものを味わいます。	□ 地元で取れた農産物を味わいます（地産地消）。	□ 地元の森の恵み（キノコ・山菜・旬やジビエ等）を味わいます。	□ 地元でとれたお魚を味わいます。
ACT 2	自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。	農山漁村へ出かけ、農地・森林・漁場を訪ね、自然や生きものにふれます。	□ グリーン・ツーリズム・農業体験に参加し自然や生きものにふれます。	□ 森林レクリエーション・森林環境教育に参加し自然や生きものにふれます。	□ ブルー・ツーリズム・漁業体験に参加し自然や生きものにふれます。
ACT 3	自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。	農山漁村の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、行事への参加を通して広く伝えます。	□ 田んぼの生きもの調査等イベントに参加し、感想を伝えます。	□ 森で働く人、暮らし人と交流するイベントに参加し、感想を伝えます。	□ 川・海イベントに参加し、感想を伝えます。
ACT 4	生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。	農山漁村の生きものや人、文化との「つながり」を守るため、保全活動に参加します。	□ 田んぼ・耕作放棄地の保全活動に参加します。	□ 森林ボランティアや企業等の森づくりに参加します。	□ 魚が生活しやすい環境（漁場）を守る活動に参加します。
ACT 5	エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。	生物多様性保全に配慮した農林水産物を選んで買います。	□ 生きものマークなどの農産物を選び買います。	□ 合法木材・森林認証・間伐材などの木材を選び買います。	□ エコラベルなどの水産物を選び買います。

社内啓発の一環として、グループ参加従事者が5つのアクションから一つ選び、各自の言葉でMY行動宣言を行った。

よかった😊

- 部署毎に宣言数を集計し周知することで、部署単位での意識の向上にも繋がった。
- その結果、グループ全体で、15,706名から宣言がなされた。
- 各自が自分にできるオリジナルなアクションを考える、ということを通じて、生物多様性の本質の理解にも繋がった。

特集3 | 環境

生物多様性の保全のために

ヤクルトグループは「乳酸菌」という自然の恵みを利用して商品を生産しており、生物多様性の保全は重要課題の一つであると認識しています。「ヤクルト サステナブル・エコロジー 2020」においても、持続可能な社会の形成のために「生物多様性の保全と活用」を推進することを掲げています。本社、工場、国内外グループ会社での取り組みをご紹介します。

(左) インドネシアヤクルトにおける植樹活動
 (右左) 「子供の森」に携わった子どもたちがヤクルト本社を訪問
 (右下) 現地における「子供の森」計画の活動風景

平成 29 年度 ヤクルト CSR キャンペーン
 “MY 行動宣言の募集”

生物多様性を守るために 私たちにできるアクション!

生物多様性とは、
 たくさんの生きものがつながりあって暮らしていること。
 生物多様性を守るためには、まずは暮らしの中で、
 生きものとのつながりを感じることが大切。
 水や空気はもちろん、
 食べものや着るものの材料、木材、薬の原料など、
 いろいろな生きもののおかげで、私たちは生きています。
©2011年から2020年までの10年間は、国連の定める「生物多様性の10年」です。

あなたにできる
 アクションとは?
 「MY行動宣言」を
 しましょう!

次の5つの中からひとつ選び、
 あなたにできるアクションを考えて「MY行動宣言」をしましょう。

たべよう	※ 飲食でとれたものを食べないでください。
ふれよう	※ 自然の中へ行く際は、動植物、土壌や水質汚染の原因を避け、自然共生の心で行動してください。
つたえよう	※ 自然の資源(土や水)に過度に頼らないで、自然の恵みを受けながら生活してください。
まもろう	※ 自然の資源(土や水)を大切に使い、自然の恵みを受けながら生活してください。
えらぼう	※ エコフレンドリーな商品(再生紙・再生繊維)を選んでください。

応募要項

対象 ヤクルトグループ全従業員
 各社(販売会社)・事業所(支店)・部署(本店各部署)の単位で応募
 のり1票
 応募期間 平成29年6月1日～30日(1か月間)
 応募数に応じて、KURUMIRU(オリジナルマグネット)を1,500セット(単位)
 プレゼントします。
※KURUMIRU(オリジナルの手すり杖をプレゼント)は、応募者が抽選で1名のみです。
 応募者数、代表的な宣言を抽選する予定です。

結果発表

「MY行動宣言」は、「国連生物多様性の10年日本委員会(UNOB-J)」(事務局：環境省)が呼びかけているもので、本キャンペーンはその呼びかけに企業グループとして取り組むものです。集まった宣言はUNOB-Jへ報告し、宣言数・発言数として登録します。

2012年から参加している「グリーンウェブ」に今年も参加します。(グループごとの集計や報告を行います。)

株式会社ヤクルト本社 広報室CSR推進室

A-6.来場者に自身の言葉で旗に宣言を書いてもらい掲示

Blue Earth Project

イベントの来場者に「参加していることを実感してもらう」「生物多様性について考えてもらう」視点から、生徒が書いた海の生きものの周りに来場者に自身の言葉でMY行動宣言を書いてもらった。また、その旗（大漁旗）を水族館に掲示してもらい、MY行動宣言の普及啓発を行った。

よかった 😊

- 海の生きものを護ることがイメージしやすいので、子ども、その親御さんをはじめ、多くの方が自分にできることを考えて参加している様子を確認できた。



来場者にMY行動宣言してもらっている様子



東海大学海洋学部博物館に掲示された大漁旗

パネル展示の最後にMY行動宣言の説明資料と箱、用意したボールを箱に投票することを宣言としてカウントした。

よかった 😊

- パネル展示の最後に置いたことで、自然な流れで活動に賛同してもらえた。
- ボールを入れることが宣言なので、記入等がなく子どもも積極的に参加できた。



要したMY行動宣言用のボールと箱

B-2. 葉っぱを貼る宣言で紅葉を表現

アクションごとに色紙で形が違う葉っぱを作り、木の枝に貼ってもらった葉っぱを宣言数としてカウントした。

よかった 😊

- 葉っぱを貼るだけで宣言になるが、メッセージを書いてくれる人も多く、自然を大切にしている思いがさらに実感できた。
- 宣言が集まると紅葉がキレイに表現され、結果を報告する掲示でも目をひく効果があり、さらにMY行動宣言を広めることができた。



来場者にMY行動宣言してもらっている様子



MY行動宣言で表現された紅葉

生物多様性に関するイベントで「MY行動宣言」の文字をシールで埋めて完成させた。
貼られたシールを宣言数としてカウントした。

よかった 😊

- 皆で一つのを完成させることで、来場者にも実施側にも達成感があった。
- 多くの人貼って宣言している姿を見て、さらに人が集まってきた。文字を大きくすることで遠くからも目立った。



MY行動宣言している様子

シールで埋め尽くされた「MY行動宣言」の文字

動物園内にMY行動宣言の5アクションに絡めたクイズを設け、動物について学びながら宣言できる方法を考えた。クイズラリーの実施を宣言としてカウントした。

よかった 😊

- 園内を回りながら宣言に参加できるため、楽しみながらMY行動宣言の5つのアクションについて考えてもらえた。
- 筆記がないため、小さな子どもでも簡単に参加できた。

どうぶつ王国 presented by ECC
クイズラリー

王国内にかくされた6個のクイズにチャレンジ!
参加者全員にECCオリジナルグッズをプレゼント!!
【王国パワールーム(売場)にお持ち下さい】

チェックポイント 3

ECCフレンドシッププラン クイズラリー
チェックポイント③
保全の森

もんだい
にほんには「やまねこ」が2しゅいるんたつて「イリオモテヤマネコ」となにかあ?
①ツシマヤマネコ ②マヌルネコ

おうちの方へ
那須どうぶつ王国では、長崎県の対馬に生息している「ツシマヤマネコ」を守るための活動をしています。
「ヤマネコ」の餌(田んぼに集まるカエルやネズミを食べる)場所を確保するために生産している「ツシマヤマネコ米」をレストランで提供
「ヤマネコテラス」でご飯を食べると、ヤマネコの保全に参加できます!

MY行動宣言
国連生物多様性の10年日本委員会



来場者がクイズラリーに参加している様子

園独自のスタンプラリーを実施し、ラリーのゴールとして台紙に5アクションを明記してゴールスタンプの押印を呼びかけ。ゴール人数を宣言数としてカウントした。

よかった 😊

- MY行動宣言をスタンプラリーの一環として参加者に呼びかけたことで、楽しみながら動物や地球環境のことを学び、参加者の多くに宣言を実施してもらうことができた。



「黒糖作り体験」、「ウミガメ観察」、「マングローブ原生林でのカヌー体験」等の体験を通じ、美しい自然を自分が大人になってもまもっていくために何をすべきか等の事後レポートを作成。レポート数を宣言としてカウントした。

よかった 😊

- 自然の素晴らしさを体験することで、参加した子どもたちは自然をまもっていくことの大切さを強く実感した。また参加したい！と感じてくれる子どもが多く、これからの活動が楽しみになった。



黒糖作り体験の様子



体験した生徒が書いたレポート

(参考) 5アクションの意味

たべよう



地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

- 旬の食材は、自然本来の季節の移り変わりの中で、その季節にだけ味わえる恵みです。つまり旬の食材を食べることで、季節の変化を実感しながら暮らすことができます。
- 一般的に旬の食材は、おいしく、安価で手に入り、生産方法は省エネ・省資源型とされています。
- 自分が住んでいる地域でとれた食材に関心を持てば、身の回りの環境の変化にも気づきやすくなり、その土地ならではの自然環境や食文化の知識も自然と身につきます。

ふれよう



自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

- 自然や生きものは、生物多様性を学ぶ何よりの教材です。
- 山に登る、海や川で遊ぶ、動物園や植物園に出かける…、近所の公園を散歩するなど、たくさんの自然体験を通じて、自然の中で遊ぶことの楽しさや地域の特色、生きものの生態や面白さを実感することが、生物多様性のより深い理解につながります。そして行動を促します。

つたえよう



自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、
写真や絵、文章などで伝えます。

- 「季節を感じた出来事や自然現象」「近所で見つけた、生きもの特有の行動」「いつも綺麗だと思うけど、名前を知らない花」など、生きものたちのさまざまな色や形、行動は、私たちの周囲には四季折々にたくさんの生きものが息づいていることを気付かせます。
- その、豊かな自然の素晴らしさ、感動を、家族やたくさんの友達に伝えてあげてください。自然の素晴らしさを知る仲間を増やしましょう。

まもろう



生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。

- 全国各地に自然や生きものの観察・調査・保全・再生など、様々な活動があります。また、「秋の味覚を探そう!」「自然を守る運動を行うNGO やNPO に寄付しよう!」など、誰でも楽しく、また気軽に参加できる機会もたくさんあります。
- これらの活動・イベントに参加することで、生きもの同士や森・里・川・海をつながり、人の暮らしと自然をつながり、郷土の過去・現在・未来をつながりなど、自然のさまざまな「つながり」を実感することができます。

えらぼう



エコラベルなどが付いた環境に優しい
商品を選んで買います。

- たとえば「生態系に配慮して管理された森林から生産されたもの」や「水産資源の持続性や海洋環境の保全に配慮して獲られた水産物」など、生物多様性のことをきちんと考えて生産・販売された商品やサービスが、私たちの生活の中にはあります。
- 私たち消費者がこのようなことを選ぶことは、生物多様性に配慮した生産者や事業者を応援し、自然環境の保全にもつながります。経済社会全体が「生物多様性を守ることが当たり前」となり、自然と共生する社会を実現するための原動力になります。